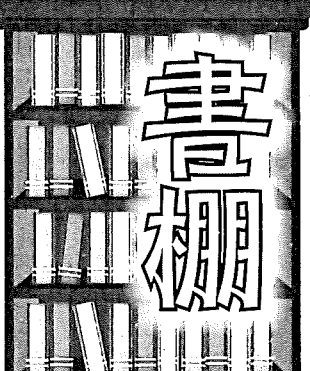


書棚



◇書籍の内容や本のお求め等については、直接お問い合わせ先へお願いいたします。

◇書籍の紹介を希望する方は、まずは左記までご連絡ください。

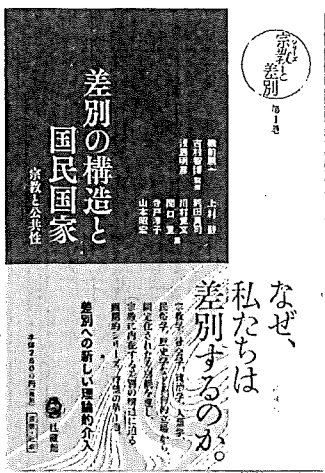
東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
「真宗」係

TEL 075-371-5099

『シリーズ 宗教と差別』 全四巻

磯前順一・吉村智博・浅居明彦 監修
小倉慈司・西宮秀紀・吉田一彦 編 (第三巻)

◆A5判 各巻約300頁・3,080円(税込)



宗教と差別

なぜ、私たちは差別するののか。

化された差別観を覆し、宗教に内在する秩序と差別の構造に迫る画期的論集である。

歴史を顧みると、宗教と差別には複雑な関係が見いだされる。すなわち、宗教とは基本的に、人間に救いをもたらすものと見なされてきた、はずである。しかし一方で、教義や教団の権威性のもとに、人間の差別を正当化し、「浄/穢」といったさまざまな二分法を作り出してきたことも事実である。本シリーズは、そ

なぜ、私たちは差別するののか――。

本シリーズは、宗教学・社会学・政治学・歴史学など、多角的立場から、固定

のような「両義性」において宗教を捉えることを基本的前提としている。また、監修者の巻頭言によると、「自分こそが差別の当事者としてある」「人間は差別を生み出す動物である」ということが、基本的な姿勢・視点であるという。

既刊の第一巻「差別の構造と国民国家―宗教と公共性」では、「聖なるもの」と「統治」の関係性や、普遍的な価値を有するはずの人権理念が、かえって「排除と抑圧」を生み出してしまったという問題等が探究されている。第二巻「差別と宗教の日本史―救済の〈可能性〉を問う」では、日本の古代から近代までの歴史を対象に、「排除と包摂」によって成り立つ社会の構造と宗教との関係がたずねられている。第三巻「差別の地域史―渡辺村からみた日本社会」では、大阪市・浪速部落の起源である渡辺村(江戸時代)の今に至る歴史がたずねられている。また、今後シリーズのエピソードとして、零巻「きよみず物語―被差別信仰論」が刊行予定である。誠実な学問方法と対話によって織りなされた本シリーズを、より多くの方々に読んでいただくとともに、さらなる対話が生まれることを期す。

(教学研究所員 名和達宣)

〔お問い合わせ〕

株式会社 法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入

TEL 075-343-0458

FAX 075-371-0458

E-mail shop@hozokan.co.jp